

「ふくいSDGsパートナー」募集説明会  
SDGsミニセミナー

# MS&AD

## SDGsを道しるべとして、未来から選ばれるふくいと企業に

2020年8月7日

**MS&AD** MS&AD インターリスク総研株式会社

リスクマネジメント第三部 フェロー

産学官公民金連携・特命共創プロデューサー

原口 真

# 自己紹介

## 原口 真（はらぐち まこと）

MS&ADインターリスク総研株式会社 リスクマネジメント第三部 フェロー  
産学官公民金連携・特命共創プロデューサー

環境省・次期生物多様性国家戦略研究会委員

国土交通省・グリーンインフラ官民連携プラットフォーム企画・広報部会幹事

熊本市・SDGs推進に関するアドバイザー

東京都・生物多様性地域戦略改定検討会委員

プラント・エンジニアリング企業勤務を経て、1997年から企業のサステナビリティ経営を支援する調査・分析、コンサルティングを展開。自然資本を活用した地域のレジリエンス強化と地方創生SDGs推進の領域で、数多くのオープン・イノベーション・プロジェクトに携わっている。

全国からSDGs講演の要請があり、企業人を中心に4,000人を超える方にお伝えしている。

はじめに

# SDGsが、若い世代の視点を知る道しるべになる

## “SDGsネイティブ”としてのミレニアル世代（経済産業省SDGs経営ガイド/2019年）

- 若い人の考え方は「SDGsネイティブ」であり、社会課題を解決したいということがネイティブにモチベーションのドライバーになっている。
- ミレニアル世代は、どのような社会貢献をしているかをビジュアルに感じられない企業では、あまり働きたくないと考えているようだ。皆が働く目的、消費する目的を求めており、それを可視化できない企業は投資家のESG資金も引き寄せられず、ミレニアル世代の優秀な人材も採用できないという時代が来ているのではないか。



**ミレニアル世代にとって魅力的な地域や企業になるためにも  
SDGsへの取り組みが重要に**

# 未来の大人たちはSDGsを学んでいる

飢餓と貧困をなくすことを使命とする国連の世界食糧計画 (WFP) によると、世界では9人に1人が飢餓に苦しんでいます。また、5歳未満で亡くなる子どものうち、約半数は栄養不良が関係しています。

もしあなたが国連の食糧問題の担当者だとしたら、日本の中学生に対してどのような活動を行いますか。50字以内で書きなさい。

大宮開成中学校(2019年)

「安ければいい」という基準で選んでしまう食べ物の例とその食べ物の問題点をあげて、「取り返しのつかないこと」がおきないようにするにはどうすればよいか、あなたの意見を100字以内で書きなさい。

横浜女子学院中学校(2018年)

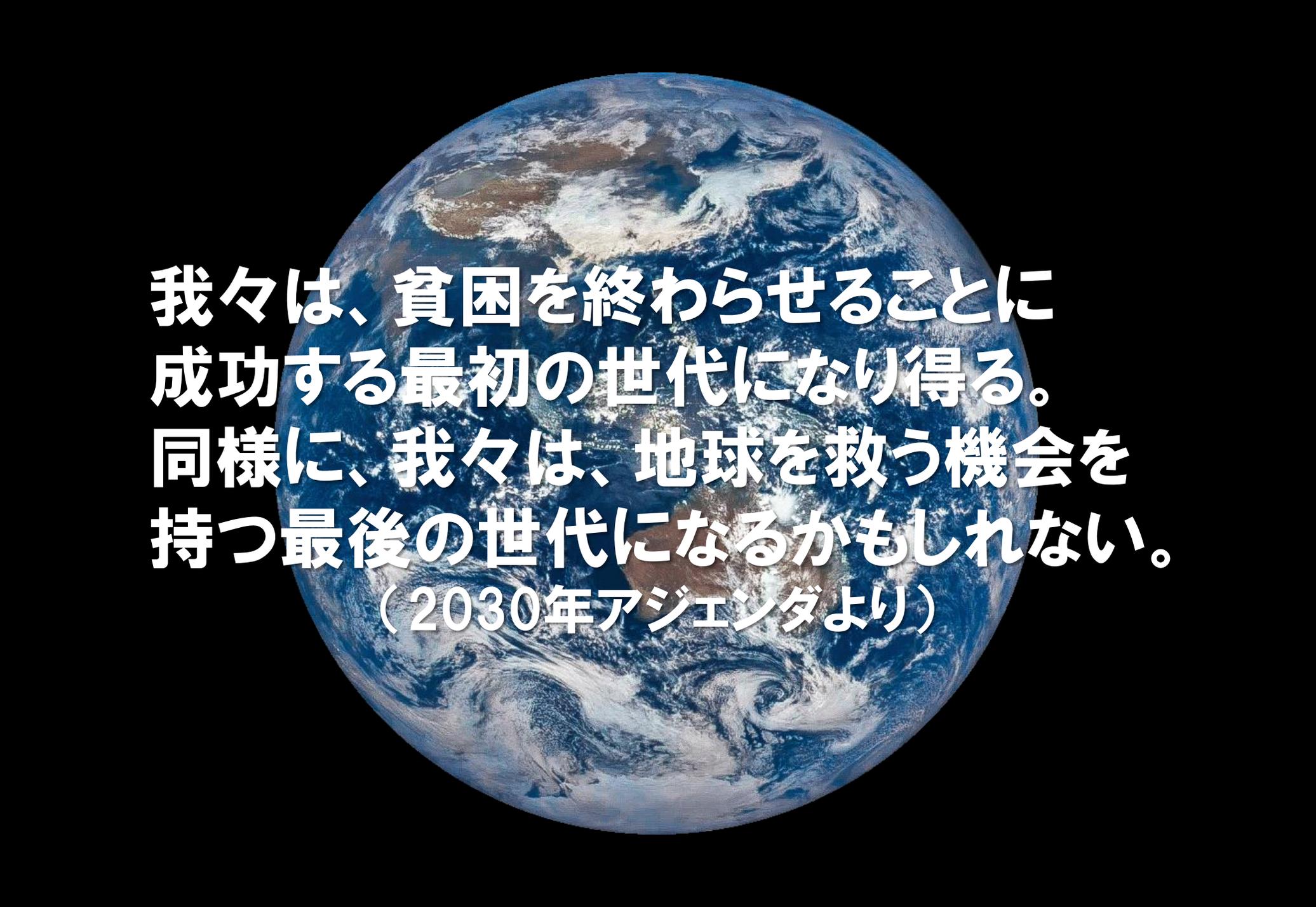
参考: 日能研「SDGs 中学入試問題から見る2019年の変化」

小学校(2020年度)、中学校(2021年度)、高校(2022年度以降)の新学習指導要領でもSDGsに関連する内容が盛り込まれることに  
**「持続可能な社会の創り手を育成する」**



**正解がない時代を生きる力をつける**

# 1. SDGsの基礎



**我々は、貧困を終わらせることに  
成功する最初の世代になり得る。  
同様に、我々は、地球を救う機会を  
持つ最後の世代になるかもしれない。  
(2030年アジェンダより)**

# SDGsとは

2015年9月、国連・持続可能な開発サミットにて  
「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択

**SDGs: Sustainable Development Goals**  
「**持続可能な開発目標**」

**2030年までに持続可能で  
多様性と包摂性のある社会を実現するための  
17の国際目標と169のターゲット**



これらの目標及びターゲットは、**統合され不可分**のものであり、持続可能な開発の三側面、すなわち**経済、社会**及び**環境**の三側面を調和させるものである。

# 2030年アジェンダが求めているのは「変革」

我々の世界を変革する(Transforming Our World)

我々は、世界を**持続的かつ強靱(レジリエント)な道筋に移行**させるために緊急に必要な、**大胆かつ変革的な手段をとることに決意**している。

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」

現状のやり方では世界を持続可能なものにできない



“**できることから**”ではなく

**根本的に経済社会のあり方の変革**が求められる

# SDGsの17のゴール①（169のターゲット抜粋）

1 貧困をなくそう



## 貧困をなくそう

1.5－2030年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々の強靱性(レジリエンス)を構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減する。

2 飢餓をゼロに



## 飢餓をゼロに

2.4－2030年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水およびその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食料生産システムを確保し、強靱(レジリエント)な農業を実践する。

3 すべての人に健康と福祉を



## すべての人に健康と福祉を

3.8－すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセスおよび安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)を達成する。

# SDGsの17のゴール②（169のターゲット抜粋）

4 質の高い教育を  
みんなに



## 質の高い教育をみんなに

4.1－2030年までに、すべての子供が男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育および中等教育を修了できるようにする。

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



## ジェンダー平等を実現しよう

5.5－政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。

6 安全な水とトイレ  
を世界中に



## 安全な水とトイレを世界中に

6.6－2020年までに、山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う。

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



## エネルギーをみんなに そしてクリーンに

7.2－2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。

# SDGsの17のゴール③（169のターゲット抜粋）

8 働きがいも  
経済成長も



## 働きがいも 経済成長も

8.3 – 生産活動や適切な雇用創出、起業、創造性およびイノベーションを支援する開発重視型の政策を促進するとともに、**金融サービスへのアクセス改善等を通じて中小零細企業の設立や成長を奨励する。**

9 産業と技術革新の  
基盤をつくろう



## 産業と技術革新の基盤をつくろう

9.4 – 2030年までにイノベーションを促進させることや100万人当たりの研究開発従事者数を大幅に増加させ、また官民研究開発の支出を拡大させる等、開発途上国をはじめとする**すべての国々の産業セクターにおける科学研究を促進し、技術能力を向上させる。**

10 人や国の不平等  
をなくそう



## 人や国の不平等をなくそう

10.2 – 2030年までに、**年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。**

# SDGsの17のゴール④（169のターゲット抜粋）

11 住み続けられる  
まちづくりを



## 住み続けられるまちづくりを

11.7 – 2030年までに、女性、子供、高齢者および障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。

12 つくる責任  
つかう責任



## つくる責任 つかう責任

12.5 – 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用および再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

13 気候変動に  
具体的な対策を



## 気候変動に具体的な対策を

13.1 – すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性(レジリエンス)及び適応の能力を強化する。

14 海の豊かさ  
を守ろう



## 海の豊かさを守ろう

14.2 – 2020年までに、海洋および沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避するため、強靱性(レジリエンス)の強化等による持続的な管理と保護を行い、健全で生産的な海洋を実現する。

# SDGsの17のゴール⑤（169のターゲット抜粋）

15 陸の豊かさも  
守ろう



## 陸の豊かさも守ろう

15.1 – 2020年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。

16 平和と公正を  
すべての人に



## 平和と公正をすべての人に

16.1 – あらゆるレベルにおいて、有効で説明責任のある透明性の高い公共機関を発展させる。

17 パートナースhipで  
目標を達成しよう



## パートナーシップで目標を達成しよう

17.7 – さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。



**環境・経済・社会の統合的な課題解決が重要**

# 2015年に社会経済のルールが変わった

2015年9月 **SDGs**



2015年12月 **パリ協定**



世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて**2℃より十分低く保つとともに1.5℃に抑える**

**持続可能な社会の実現に向けた世界共通のゴールが設定された**



**ゴールの達成に向けて、社会もお金の流れも激変**

- **サステナビリティ**が、経営の数字に直結しない“レピュテーション”向上取組から、**本業の成長基盤**になった
- “**脱炭素**”と“**ダイバーシティ(多様性)&インクルージョン(包摂)**”は企業規模に関係なく必須の課題に

# 2030年アジェンダの民間への期待は「イノベーション」

- “民間企業の活動・投資・イノベーションは、生産性及び包摂的な経済成長と雇用創出を生み出していく上での重要な鍵である。我々は、小企業から協同組合、多国籍企業までを包含する民間セクターの多様性を認める。我々は、こうした民間セクターに対し、持続可能な開発における課題解決のための創造性とイノベーションを発揮することを求める。”

地域の稼ぐ力を伸ばす  
「攻める」  
SDGs

- “「ビジネスと人権に関する指導原則と国際労働機関の労働基準」、「児童の権利条約」及び主要な多国間環境関連協定等の締約国において、これらの取り決めに従い労働者の権利や環境、保健基準を遵守しつつ、ダイナミックかつ十分に機能する民間セクターの活動を促進する。”

社会が求めるモラルを  
「守る」  
SDGs

# SDGsは地方創生戦略における横断的な目標

## 第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」における地方創生SDGsの位置づけ

### 新しい時代の流れを力にする

#### ○地方創生SDGsの実現などの持続可能なまちづくり

～(中略)～

・持続可能なまちづくりや地域活性化に向けて取組を推進するに当たって、**SDGsの理念に沿って進めることにより**、政策全体の全体最適化、地域課題解決の加速化という相乗効果が期待でき、地方創生の取組の一層の充実・深化につなげることができる。このため、**SDGsを原動力とした地方創生を推進する。**

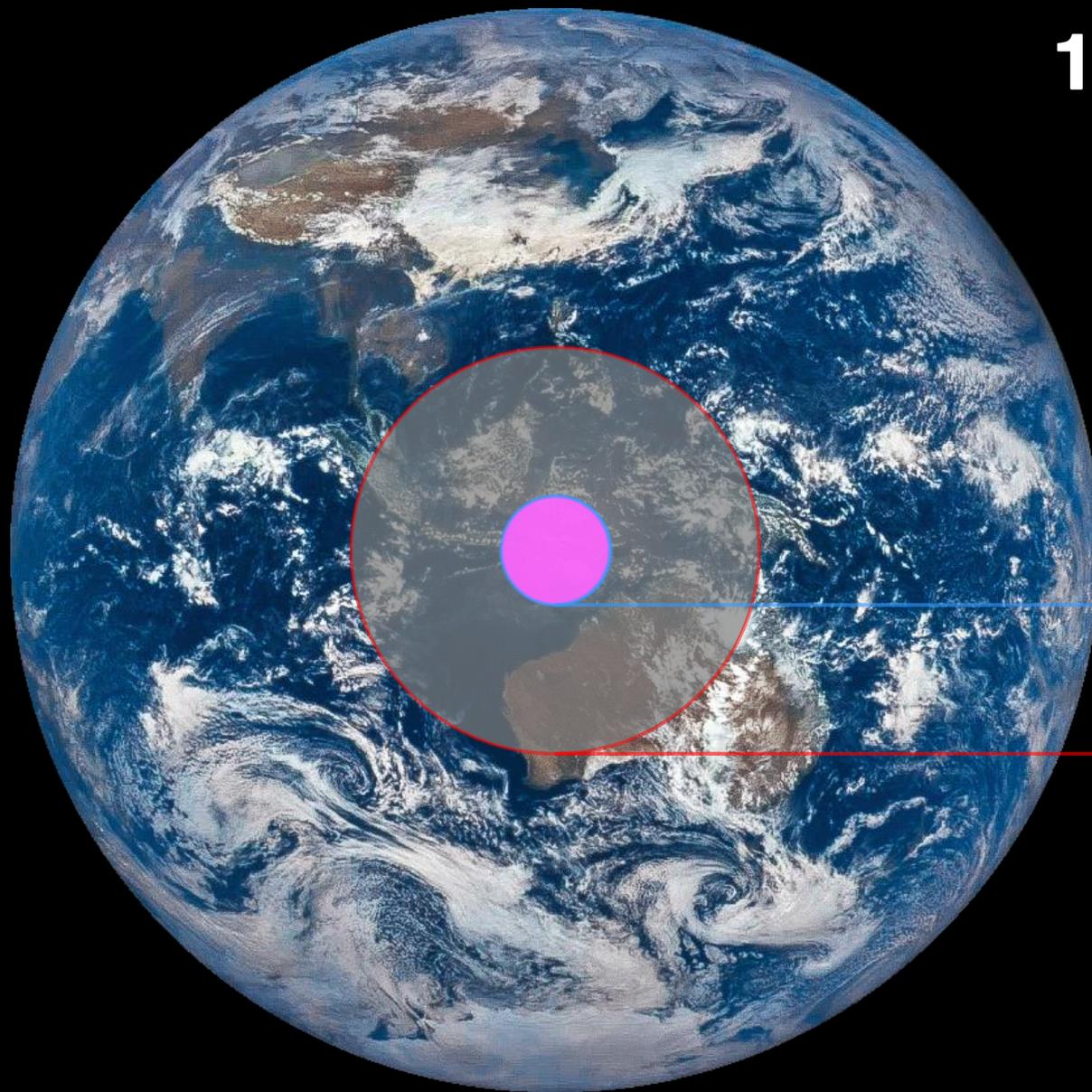
～(中略)～

・このため、地方創生に向けた日本のSDGsモデルを国内外に発信するとともに、引き続き、SDGs未来都市の選定や、経済・社会・環境の三側面が統合し、相乗効果と自律的好循環を生み出すモデル事業の形成への支援を行う。また、地方公共団体のみならず、民間企業、金融機関などの多様なステークホルダーによる官民連携プラットフォームの取組を一層活発化させるとともに、地域における資金の還流と再投資を生み出すため、地方公共団体による地域事業者等を対象にした登録・認証制度の展開、地域金融機関等に対する表彰制度、地域金融機関等と大学等との連携による産業シーズやイノベーションの創出や、様々なステークホルダーによる事業の取組に対する評価手法等の構築など、**金融面における地方創生SDGsを推進する。**

出典：内閣府「地方創生に向けたSDGsの推進について(2020年1月)」

# 地球環境の歴史が示すグローバル化の大転換

1900年

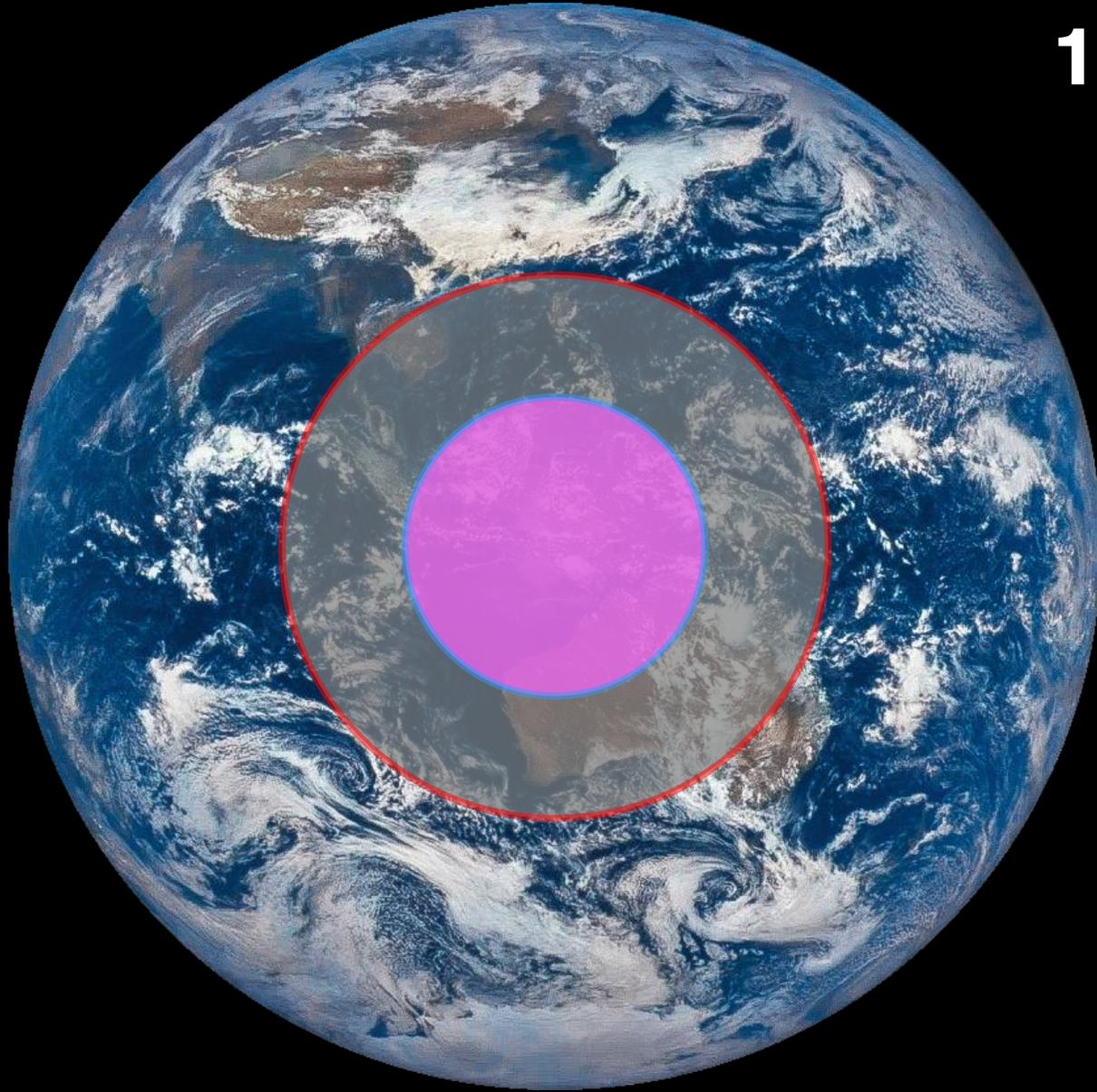


エネルギー消費  
(経済)

人口(社会)

# 地球環境の歴史が示すグローバル化の大転換

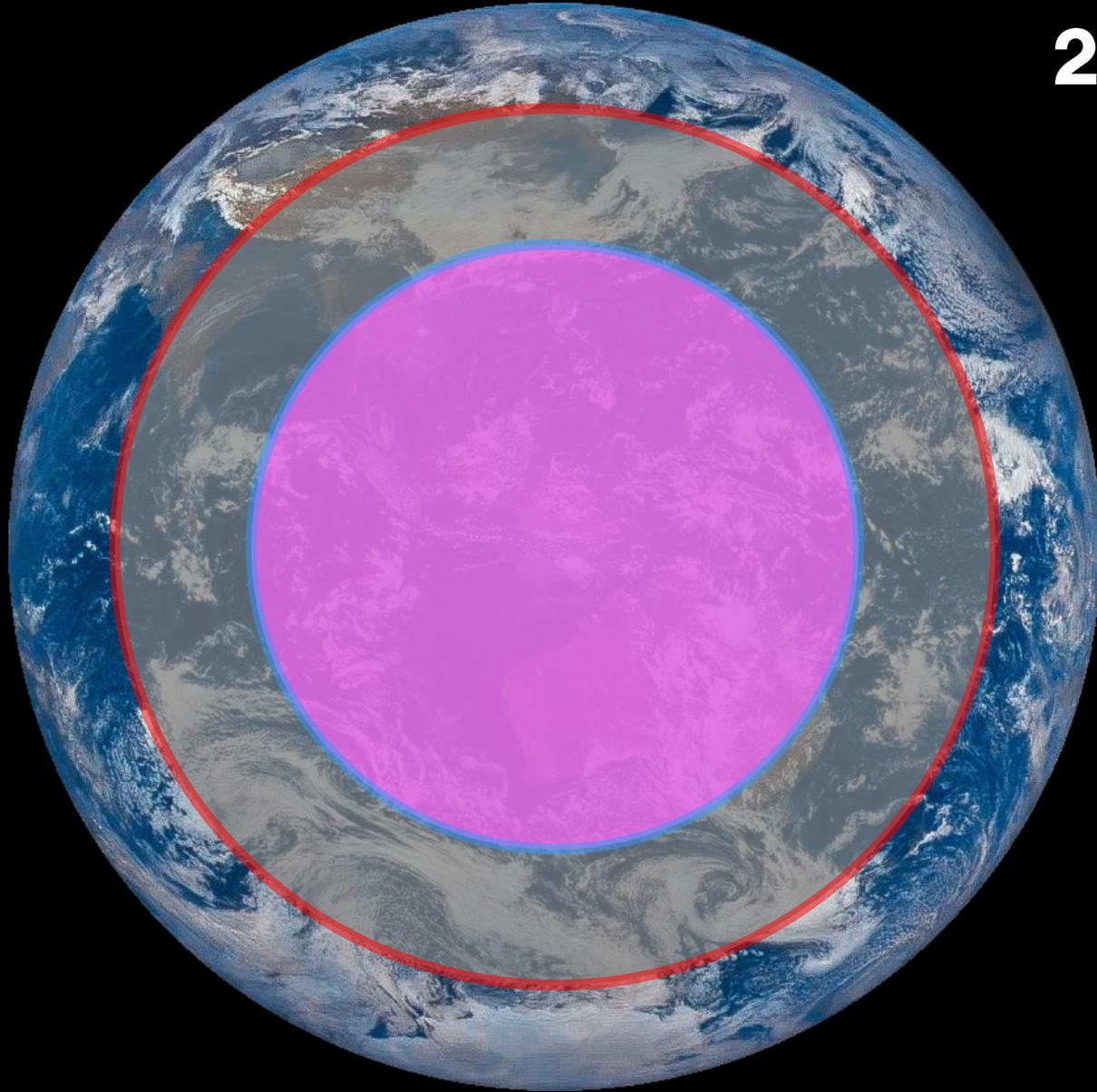
1950年



“Planetary Health” ロックフェラー財団・ランセット委員会(2015年)

# 地球環境の歴史が示すグローバル化の大転換

2010年



人間活動の影響が地球の生命維持システムを超えつつある

## 2. SDGsでWith/Postコロナを 乗り越え「未来へつづく福井」へ

# 気象災害やその他の危機に対するレジリエンスを向上する



## 2018年・2019年の主な風水災の支払保険金



出典：一般社団法人日本損害保険協会・日本地震再保険株式会社調べのデータを基に作成。

台風19号、15号は2019/12/19 台風21号、24号、西日本豪雨は2019/5/20 東日本大震災は2018/3/31 時点の数字。

# 未来に残したいお店や商売を地域の手で守る



国土交通省

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける飲食店等の皆様へ

地方公共団体等と連携して申請すると

## テイクアウトやテラス営業などのための 道路占用の許可基準を緩和します

国土交通省では、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける飲食店等の皆様を支援するための**緊急措置**として、地方公共団体と地域住民・団体等が一体となって取り組む沿道飲食店等の路上利用の占有許可基準を緩和することとしました。

また、地方公共団体に対しても同様に取り組んでいただけるよう要請しています。



イメージ(佐賀県より提供)

出典： 新型コロナウイルス感染症の影響に対応するための沿道飲食店等の路上利用に伴う道路占用の取扱いについて(国土交通省、2020年6月5日)

# 未来に残したいお店や商売を地域の手で守る



## 東京都三鷹市

「学生アルバイトを活用した宅配事業による飲食店の支援」

顧客の減少など大きな影響を受けている市内飲食店を支援するため、飲食店の弁当等の宅配を代行するサービスを実施します。株式会社まちづくり三鷹が、アルバイト先の休業等で収入が減少している学生等を雇用し、飲食店から弁当を受け取り、配達するプラットフォーム的な役割を担います。5月末に全戸配布する「三鷹弁当マップ(パンフレット版)」により店舗の参加を促し、関係団体と連携しながら飲食店の支援と買物利便性の向上を図ります。

## 静岡県浜松市

「タクデリックス浜松」

新型コロナウイルスにより需要が減少したタクシー業界と営業自粛となった飲食店を地域のIT事業者のデリバリーシステムで解決すること。

…確実に来るであろうコロナウイルスが終息化した平時に戻った際に、コロナ禍以前と同様の平時となるか、もしくは経済的な環境が大きく変わった平時になるか、どちらの可能性も否定できませんが、その時にも持続的な連携として残り、新たな経済的価値を生み続けるものを作ることの一つの目標としています。

そしてさらに、高齢化が進む日本において、日常的に外出が困難な方々へ、飲食店のお弁当だけでなく、食料品店から食料品をデリバリーするといった要望も少なからず出てきている中で、このタクシーによるデリバリーは、社会的インフラとして活躍し続けるであろうと考えております。

# 農林水産物の地産地消で自然の恵みを守る

2 飢餓を  
ゼロに



6 安全な水とトイレ  
を世界中に



11 住み続けられる  
まちづくりを



12 つくる責任  
つかう責任



13 気候変動に  
具体的な対策を



14 海の豊かさを  
守ろう



15 陸の豊かさも  
守ろう

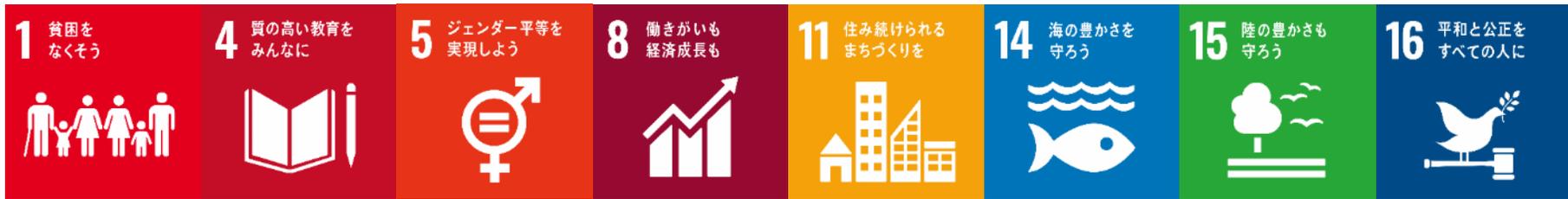


17 パートナーシップで  
目標を達成しよう



**地域のお金を地域で循環させないと地域の生産者がいなくなってしまう  
日本の食糧安全保障を考えても非常に重要**

# 次世代に選ばれるまちづくりで地域の未来を守る



## 地域の重鎮が感じるよいところ

- 自然や食が豊か
- 家族や地域のつながりが強い
- 子育て・教育の環境が充実
- 人材力が高い
- 産業・雇用基盤が安定



## 地域で生まれた若者が地元が住みづらいつ感じているところ

- 自然の恵みを体験したことがないからよさがわからない
- つながり強すぎて生きづらい、外の人も入りにくい
- 女性の負担が大きい、結婚・子育てが当然という価値観が生きづらい
- 安定志向が強い人しか残らない、新しいことに挑戦しにくい
- 若者・女性に魅力ある仕事不足、都市部に比して賃金低い

福井県の資料をもとに作成

# 3. 変革のための思考法と パートナーシップの重要性

# 企業がSDGsに取り組むポイント

- **持続可能な社会の実現に貢献するビジネスモデルを考えること**

⇒CSV(社会との共通価値の創造:Creating Shared Value)を実現する21世紀型のビジネスモデル

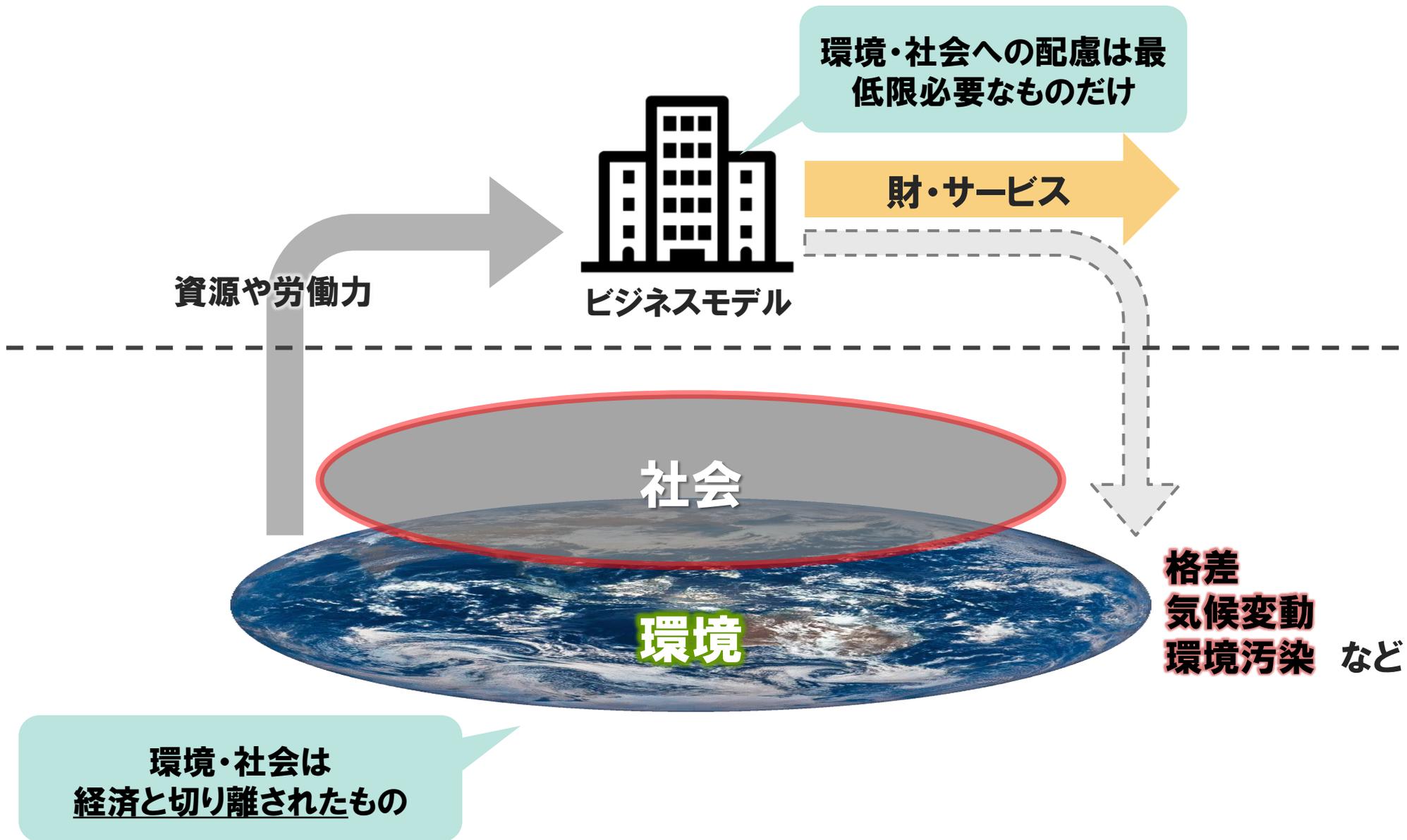
- **将来のあるべき地域と会社の姿を明確にすること**

⇒未来志向で理想像を描く

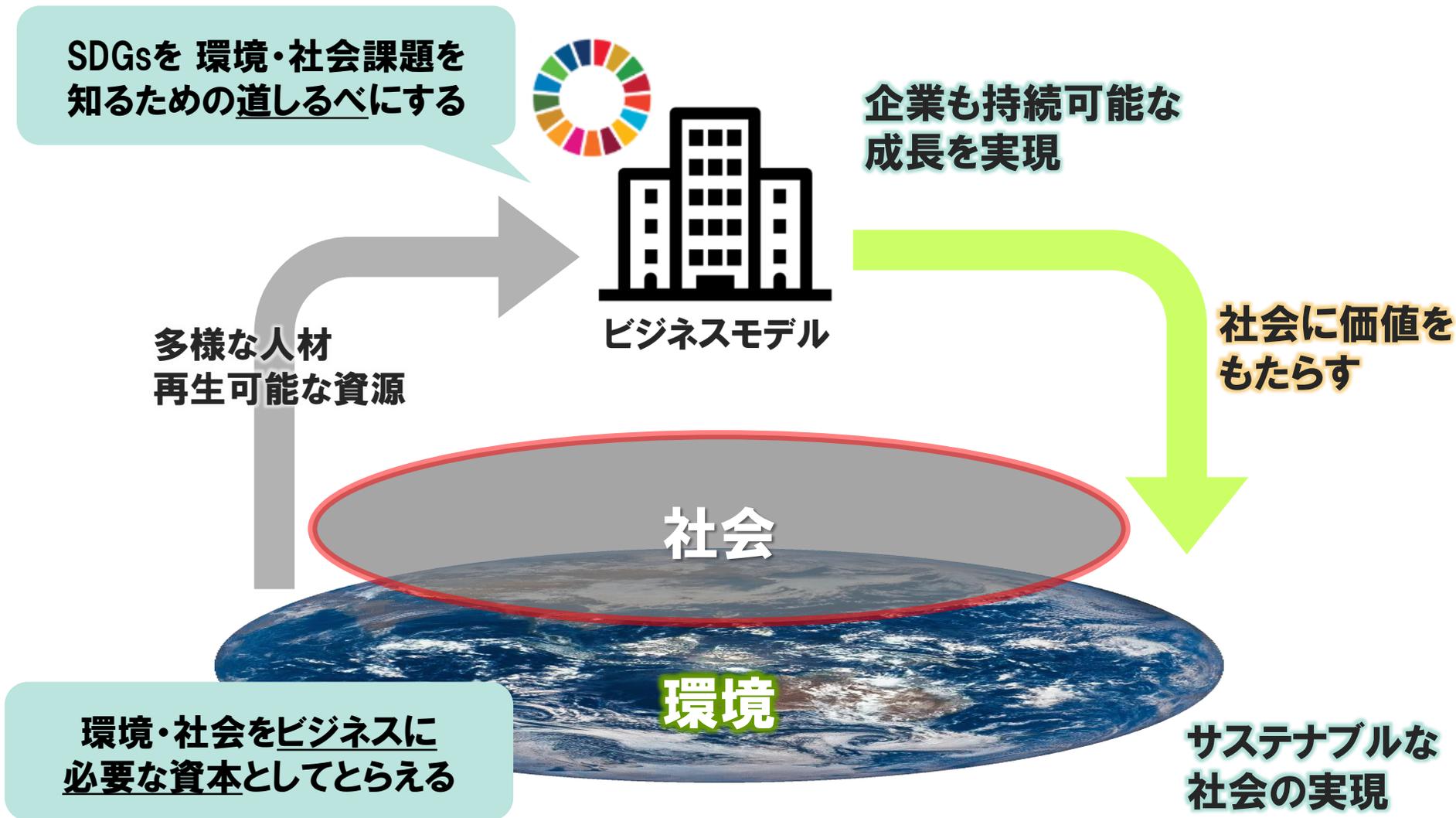
- **理想像に向かう道筋を考えること**

⇒特に、自社の知見・ノウハウでは解決できない課題をどうするか

# 変革前：20世紀型のビジネスモデル



# 変革後：21世紀型のビジネスモデル



CSV( 社会との共通価値の創造 )を実現するビジネスモデル

# アウトサイドインで”あるべき姿(存在意義)”を考える

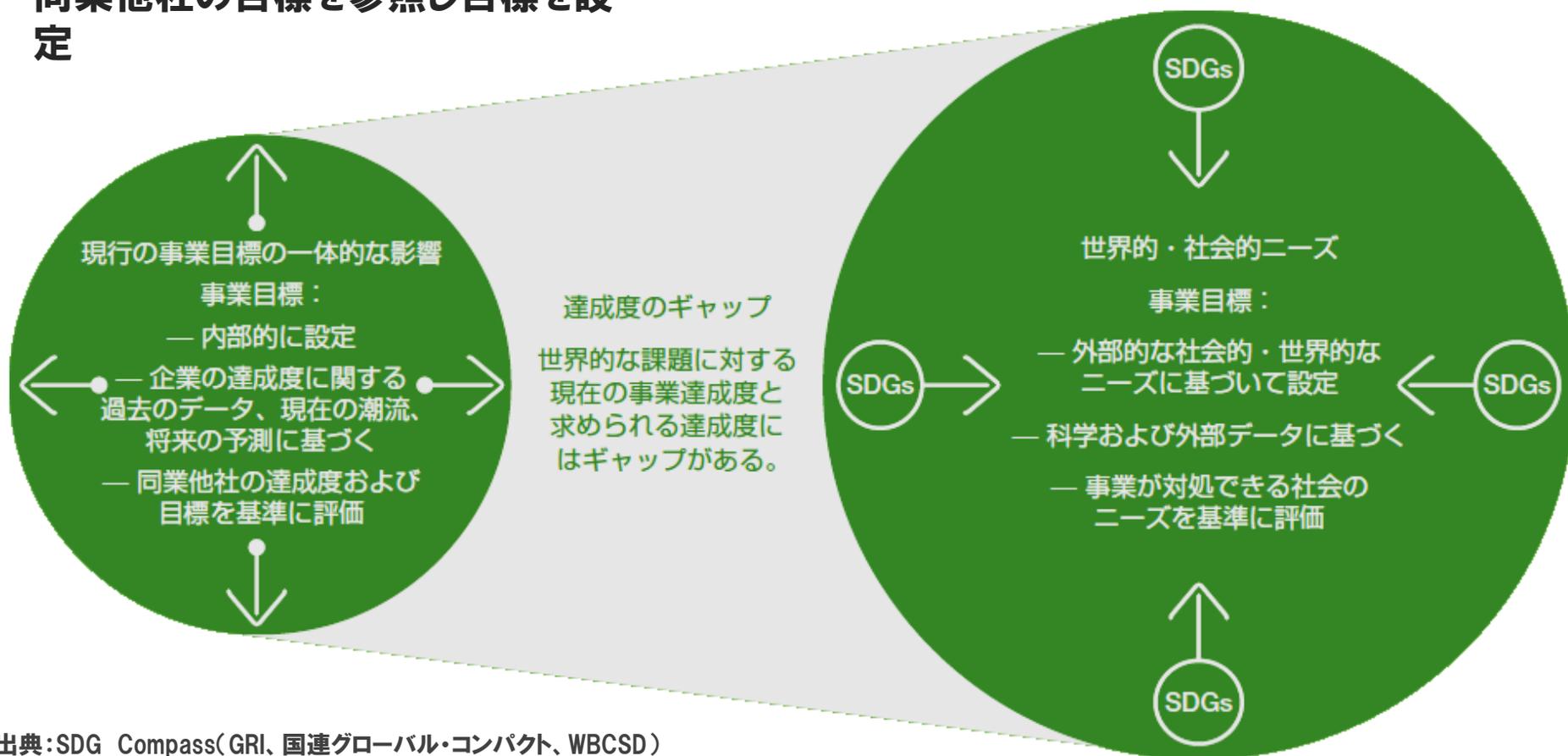
## インサイドアウト

世界的・社会的ニーズを見ずに、自社内部の過去のデータ、現在の潮流や将来の予測に基づいたり、同業他社の目標を参照し目標を設定



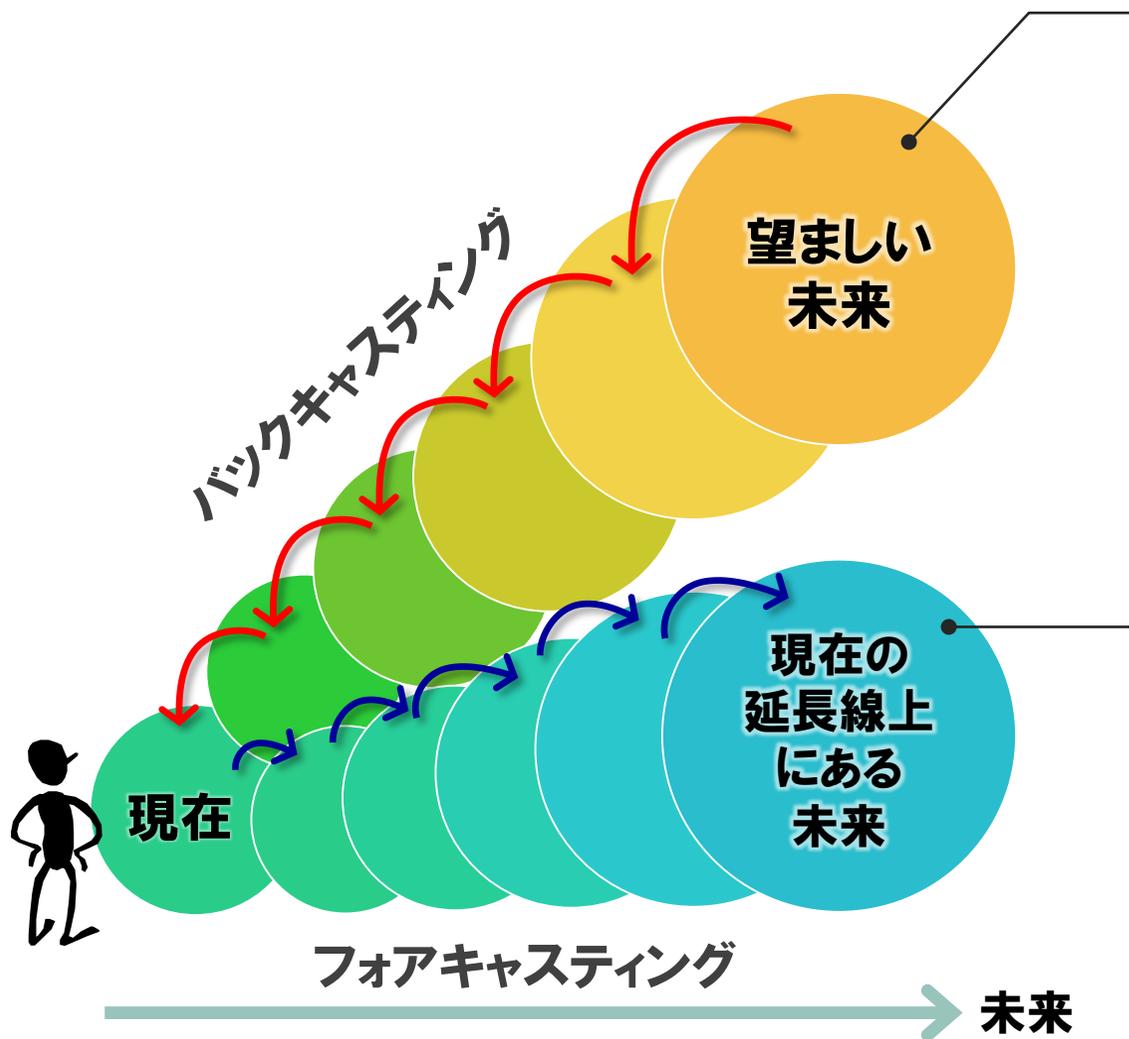
## アウトサイドイン

世界的な視点から、何が必要かについて外部から検討し、それに基づいて目標を設定



出典：SDG Compass(GRI、国連グローバル・コンパクト、WBCSD)

# バックキャストिंगで、あるべき姿への道のりを考える



## バックキャストिंग

現在の状況を前提とせずに描くため、劇的な変化が求められる問題に対して有効とされる。



## フォアキャストिंग

過去や現在の状況から将来を予測する。探索して得られる将来は現状に基づくため、現在と全く異なる将来を描きにくい。

# あるべき姿を実現するために必要なパートナーシップを考える

## 垂直的連携

SDGsを道しるべに、グローバルな課題や日本の国家レベルの課題にも視野を広げて、ビジネスモデルを構築

グローバル・国連



ナショナル・日本



ローカル・地域



産学官公民金連携・共創

## 水平的連携

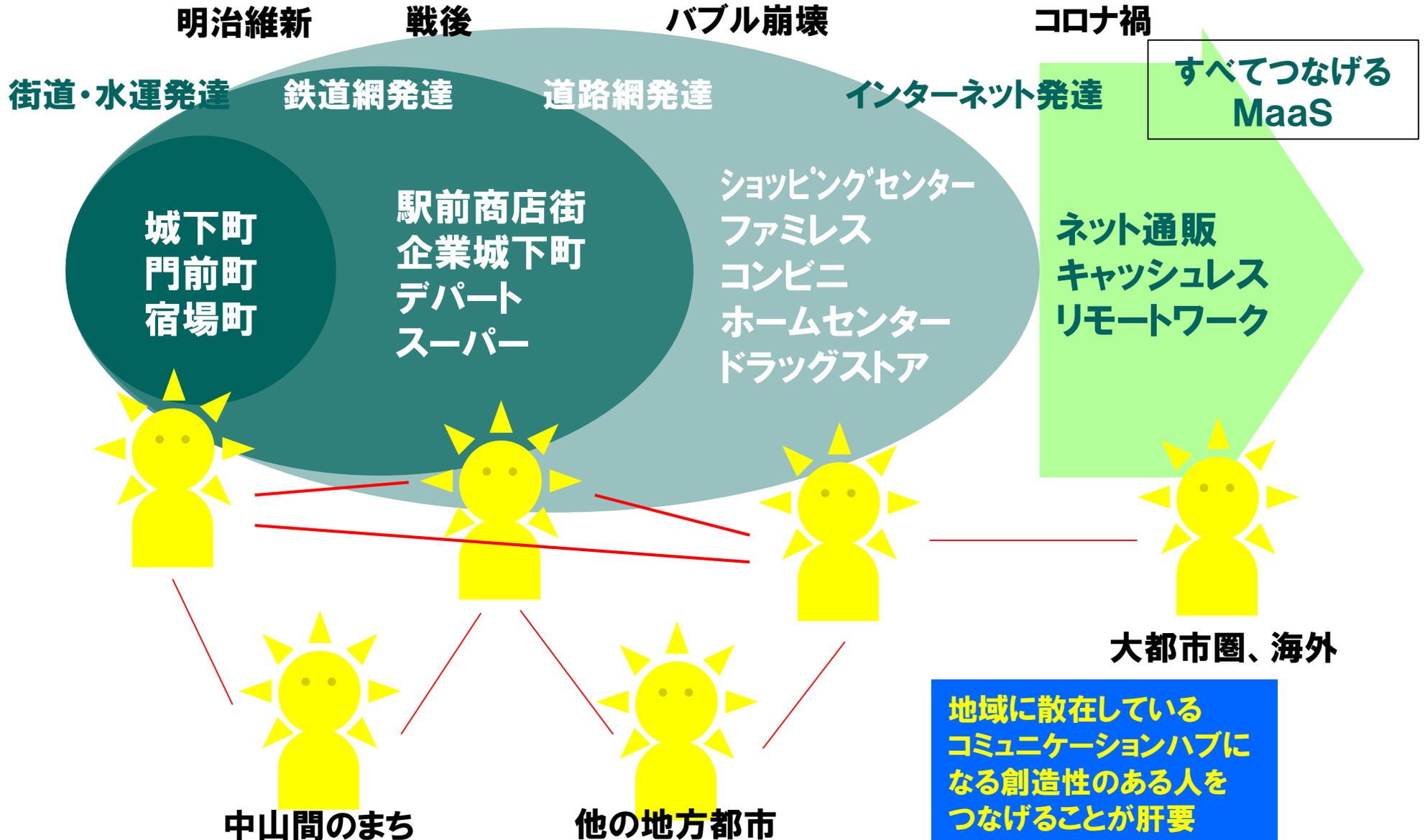
他の企業、地方公共団体、政府関係機関、公益法人、地域の経済団体、地域金融機関、大学・研究機関・教育関連機関、市民団体・NGOなどのステークホルダーとパートナーシップを構築し、オープンイノベーションを推進

17 パートナーシップで  
目標を達成しよう



# 人の創造性のネットワークをまちづくりの中心に

2020年6月作成



# 未来から選ばれるふくと企業に

ご清聴ありがとうございました

サステナブル経営 レポート<第10号>

「SDGsを道しるべとして、With/Post コロナ時代を考える」

[https://www.irric.co.jp/risk\\_info/eternal/index.php](https://www.irric.co.jp/risk_info/eternal/index.php)

ぜひお読みください。

## お問合せ先

**MS&AD** 三井住友海上火災保険株式会社

福井支店

〒910-0018 福井県福井市田原町1-5-21

担当: 亘(わたり)、金岡(かなおか)

TEL: 0776-24-8251

